

共同利用実施報告書(研究実績報告書)
(研究集会)

1. 課題番号 2014-W-05

2. 研究集会名 (集会名の英訳もご記入ください)

和文: 地震発生の素過程研究集会

英文: Workshop on micromechanics of earthquake generation

3. 研究代表者所属・氏名 東北大学・矢部康男

(地震研究所担当教員名) 平賀岳史

4. 研究集会参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	旅費支給の有無
大槻憲四郎	東北大学・名誉教授	無
津田寛大	東北大学・学部4年	無
桑野 修	JAMSTEC・研究員	無
直井 誠	京都大学・助教	有
山下 太	防災科研・主任研究員	無
道林克禎	静岡大学・教授	有
尾上彩佳	静岡大学・修士2年	有
中谷正生	東京大学・准教授	無
矢部康男	東北大学・准教授	無
並木由香	京都大学・修士2年	有
堤 昭人	京都大学・助教	有
吉田佳明	静岡大学・修士1年	有
波多野恭弘	東京大学・准教授	無
岡本汐里	広島大学・修士1年	有
安藤亮輔	東京大学・准教授	無
加藤尚之	東京大学・教授	無
清水以知子	東京大学・助教	無
金川久一	千葉大学・教授	無
田中伸明	千葉大学	無
星野紘輝	千葉大学	無
山口哲生	九州大学・准教授	無

5. 研究集会の概要 (200-400 字)

地震発生層における岩石レオロジーや断層物性を明らかにすることを目指して、天然試料および掘削試料、合成試料の組織や物性あるいは室内実験により明らかとなった摩擦特性の環境依存性および载荷条件依存性についての報告が行われた。さらに、地震活動から断層の状態や物性を推定することを目的として、室内摩擦実験及び南アフリカ大深度金鉱山での観測に基づく極微小地震活動の解析結果が報告された。これらの報告の多くは、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」によって得られたものであり、本研究集会は同計画の課題間連携を補完する役割も果たしている。

6. 延べ参加人数、研究集会の概要 (100 字程度) についてご記入ください (共同利用・共同研究拠点実施報告書に掲載します)

延べ参加人数 36名

地震発生素過程を理解するため、天然試料および掘削試料、合成試料の観察、あるいは、室内実験や震源直近観測に基づいてえられた研究成果を持ち寄り、議論を行った。「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の課題間連携も兼ねている。